



区民の皆さんへ

「基本構想を考える職員研究会」が発足しました

5月9日(水)、「世田谷区基本構想・基本計画」の策定にあたり、若手職員が区の将来像について自由な発想で議論し、政策を考案・発表する「基本構想を考える職員研究会」が発足しました。

今回、話し合いの手法として、「ワールド・カフェ方式」を区として初めて採用しました。ワールドカフェとは、カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、4～5人単位の小グループのメンバーの組み合わせを絶えず変えながら話し合いを続けることにより、参加者全員が話し合っているような効果が得られ、新しいアイデアや気づきが生まれる手法です。

基本構想策定の過程だけでなく、この研究会に参加する職員(研究員)が今後区民の生の声を聞く機会に、自由で新しいアイデアがたくさん出るように話し合いをサポートできるようになることも期待して採用しました。

発足式で私は、「同じものでも人によっていろいろな見方がある。硬くならず柔軟に考え、面白い意見をたくさん出してほしい。」と挨拶しました。

その後、早速、「20年後の世田谷」をテーマとした話し合いが始まりました。

世田谷区長 保坂展人

区のHP 「区長の部屋」より

世田谷区基本構想

策定に若手職員が参画

ワールドカフェ方式で検討

都政新報 2012.5.11

世田谷区は、2014年度からの新たな基本構想策定に、若手職員が参画する機会を設ける。9日に「基本構想を考える職員研究会」の発足式が行われ、区の魅力や20年後のあり方などを話し合った。

基本構想の策定は従来、学識経験者や公募区民で構成する審議会を設け、区民意見などを聴取しながら案をまとめるケースが多い。世田谷区では、この審議会での検討に若手職員が参画する機会を設ける。

世田谷区政策研究担当課の田中文子課長は、「基本構想は長期間にわたるもの。20年後の区政を担う職員の発想を取り入れたい」と話す。職員研修の一環としても位置付けており、区民の生の声を聞きながら政策に反

映していくことも狙いの一つだ。40歳以下も在職10年度の若手職員が対象で、庁内公募の結果、主任級を中心に48人が手を挙げた。事務系だけでなく、土木職や建築職などの技術系、保育士、衛生監視などの専門職種も参加しており、田中課長は「結果的に様々な職種が交流できる場となった」と話す。

9日の研修は「ワールドカフェ」方式で行われた。4～5人のグループ

に分かれ、特定のテーマについて、メンバーの組み合わせを変えながら議論を深めていく方式で、参加した職員は「世田谷区の好きなところ」や「20年後の区の姿」について、自由に意見を出し合った。写真。出された意見は絵や文字でテーブルの紙に記入し、アイデアがつながり合っ

て新しい発想や気づきが生まれることを目指す。職員らは今後、基本構想審議会や専門部会、区民参加のワークショップなどに参加し、12月上旬には研修成果を審議会や区長に報告する。基本構

想審議会は、こうした意見も踏まえ、来年6月に答申をまとめる予定。

都政新報 2012.5.11 より
都政新報社の了解及び区担当課の確認を得て紹介します。